

北西教育センター実践講座 「子どもの成長に役立つ ICT 機器の活用とは」

東京都公立小学校教員

葛貫 裕介

1. 効果的な活用の5つの視点

- ・子どもたちが一人1台端末を自分の文具（ツール）の1つとして、日常的に適切に使っていく
- ・5つの視点をもって授業デザインを考えると、効果的な活用場面が見えてくる
 - ①「情報を集める」
 - ②「事実を捉える」
 - ③「考えを整理・共有」
 - ④「離れた場所（時間）と繋ぐ」
 - ⑤「学びを蓄える」
- ・ICT操作スキル操作スキルが不十分だと、肝心の学習内容に対する思考が深まらない

2. 情報モラル指導のポイント

- ・情報モラルとは、「情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度」
- ・「〇〇しない」から「どうしたらリスクを減らして上手に活用できるか」への転換
- ・「自分ごと」にするための指導 と 自律を目指した指導
- ・教師もクラウド上での課題の管理や提出・共有の方法に気をつけていきたい

3. 健康に留意した指導のポイント

- ・利用しない教材・教具はこまめに片付ける
- ・画面と目の距離は30cm以上、照明が反射しないように画面の角度調整、画面の明るさも調整
- ・30分に1回は目を休め、寝る1時間前からは使わない
- ・端末の利用については、保護者への啓発も大切である
- ・情報モラルと健康面の指導は、全ての授業等を通じて繰り返しの指導が大切である

4. 子どもの成長に役立つ ICT 活用を目指して

- ・一人1台端末の日常化（溶け込み）で、資質・能力を確実に育成することを重視していく
- ・わざわざ遠回りして学習活動をする意義を教師も子どもも実感できる授業（学び）を創る
- ・デジタルとアナログの双方のメリット・デメリットを十分に整理・理解しておくことが必要
- ・一人1台端末によって、どのような学びが実現可能であるかの授業イメージをもつ
- ・これからの社会を生きる子どもたちには、変化する状況に応じて、情報を集め決断し、すぐに事態に対応する力がより一層求められる
- ・一人1台端末が導入されたことで、教師は、どの場面で使うと資質・能力がより育成されるのかを見極める眼、各教科の学びの本質を掴む力量が問われている